

2007年9月27日

株式会社 富士経済  
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町  
 2-5 F・Kビル  
 TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165  
 URL: <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>  
 URL: <https://www.fuji-keizai.co.jp/>  
 広報部 03-3664-5697

## 外食市場の調査結果

2007年の外食市場は前年比0.2%増の33.5兆円の見込

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811)は、外食市場の調査結果(ファーストフード、テイクアウト、ホームデリバリー・ケータリング、料飲店、交通機関、レジャー施設、ファミリーレストラン、喫茶、西洋料理、日本料理、東洋料理、エスニック料理、給食、宿泊宴会場の14分野)から外食市場を総合的に分析した。その結果を調査報告書「外食産業マーケティング便覧 2007 総括編」にまとめた。

今回の外食市場の調査では、4月～7月にかけて調査した14分野129業態の外食市場の結果に基づき日本の外食市場の総合的な分析とともに、エリア別の動向、業態別の成長性などの分析も行った。

### <調査分析結果の概要>

外食市場 2006年 33.4兆円(前年比0.1%減) 2007年見込33.5兆円(前年比0.2%増)

外食市場は、1998年にマイナス成長となってから2004年まで7年連続で縮小してきたが、2005年に8年ぶりに前年を上回った。2006年は微減となったものの、2007年はファーストフードの伸びが全体を牽引し前年比0.2%増と2年ぶりに前年を上回る見込みである。ファーストフードは2001年から2003年まではプラスで推移してきたが、その伸び率は1%未満に留まっていた。2004年にはわずかながらもマイナスに転じたが、2005年、2006年と2年連続前年比4.1%増と拡大を続け、2007年も前年比4.8%増が見込まれる。

ファーストフードの中では、「ハンバーガー」、「アイスクリーム」、「ギョーザ」、「回転ずし」、「牛丼」、「とんかつ・かつ丼」、「定食チェーン」が特に好調に推移している。「ハンバーガー」は「マクドナルド」、「アイスクリーム」は「サーティーワンアイスクリーム」の両トップチェーンの復活により、「牛丼」は米国産牛肉の輸入解禁による「牛丼」の販売再開により、「定食チェーン」は上位チェーンの積極的な出店と新興勢力の台頭により、それぞれ高成長を続けている。

また、ファミリーレストラン(FR)は2005年に2年ぶりに前年を下回ったが、「チャンポンFR」、「ステーキ・ハンバーグFR」、「イタリアFR」、「バイキングレストラン」が好調で2006年はわずかながらも前年を上回り、2007年も引き続き拡大する見込である。「バイキングレストラン」は、新規参入が相次いでおり、また、オーガニックビュッフェの台頭などにより高成長を続けている。「ステーキ・ハンバーグFR」はハンバーグ主体のチェーンが拡大し、「イタリアFR」は小さな商圏でも出店可能な客単価の低いチェーンが市場を牽引している。

### 拡大を続ける中食市場

	2006年	前年比	2007年見込	前年比
狭義の外食市場 (中食を除いた市場)	2兆6,461.9億円	99.7%	2兆6,483.3億円	100.1%
中食市場	6兆9,364億円	100.8%	6兆9,782億円	100.6%

中食市場(テイクアウトとホームデリバリー・ケータリングの合計)は、縮小する外食産業の中で成長を続け注目を集め、「デパ地下」、「ホテイチ」などの流行語を生み出した。2006年はホームデリバリー・ケータリングが前年比0.5%減と前年を下回ったものの、テイクアウトが前年比1.1%増と拡大し中食市場は前年比0.8%増となった。宅配ずし、宅配釜めし、病者・高齢者食宅配などの市場は拡大しているが、宅配ピザと最大の売上規模

を持つ仕出し弁当・ケータリングの減少が影響し、ホームデリバリー・ケータリング市場は縮小した。

#### イタリアン(クイックパスタ・宅配ピザ・イタリアF R・イタリア料理の合計)市場

2006年 5,906億円(前年比0.1%増) 2007年 5,937億円(前年比0.5%増)

1991年前後に発生したブーム以降着実な成長を続けてきたが、2006年はイタリア料理、イタリアF Rは引き続き拡大したものの、クイックパスタが微減、さらに宅配ピザが売上高、店舗数とも大幅減となったため、トータルでは売上高がほぼ前年並みに、店舗数は前年割れとなった。今後は、宅配ピザは縮小が予想されるが、イタリア料理、イタリアF R、クイックパスタは伸び率こそ鈍化するものの引き続き増加していく見込で、イタリアン分野は微増の見通しである。

イタリア料理が市場の5割強を占めている。イタリア料理の代表的なメニューであるパスタやピザは万人から好まれ安定した需要を確保している。パスタレストランは、「洋麺屋五右衛門」、「ポポラマーマ」の積極的な出店により成長を継続している。高級店は、根強いリピーター層に支えられ、また本場で飲食経験をした消費者が増加し、日本でも本場の味を求める傾向が強まってきていることから、安定した需要を維持している。宅配ピザは、2002年に「ワールドカップ特需」により一時的に息を吹き返したものの、2003年に再び縮小に転じ、前年を維持した2005年を除き、マイナスに歯止めがかからない状況である。2006年は、2位の「ピザハット」が2桁成長したものの、トップの「ピザラ」を始め前年割れのチェーンが続出し大幅減となった。イタリアF Rは、1990年以降「サイゼリヤ」が低価格を武器に出店攻勢をかけ、さらに2001年にはF R最大手のすかいらーくが低価格業態の「グラッチェガーデンズ」で新規参入し拡大を続けているが、伸び率は鈍化してきている。

#### 焼肉(焼肉料理・焼肉F Rの合計)市場

2006年 5,904億円(前年比2.1%減) 2007年 5,877億円(前年比0.5%減)

2003年によくB S Eの影響による市場縮小から回復したものの、同年12月に米国産牛肉のB S E騒動が発生して輸入が禁止されると、翌2004年には再びマイナスに転じ、その後も回復には至っていない。2006年7月から米国産牛肉の輸入が再開されたものの、上位チェーンの「炭火焼肉酒家 牛角」、「安楽亭」、「焼肉屋さかい」が軒並み減少し、さらに市場は縮小している。ただし、回復の兆しが見え始めており、2008年には6年ぶりにプラスに転じると予測される。

個人営業の店のウエイトが大きい焼肉料理が全体の8割強を占めている。焼肉料理は、1990年代後半に急成長した「炭火焼肉酒家 牛角」が市場を牽引してきたが、2006年は大幅に売上を減少させ、市場全体のマイナス要因となった。また、近年店舗数が急増していたジンギスカン料理(焼肉料理に含む)は、ブームの収束に伴い2006年に縮小に転じた。焼肉F Rも2004年の米国産牛肉の輸入禁止の影響から抜け切れず、上位チェーンの「安楽亭」、「焼肉屋さかい」が大きく売上を減少させ、市場も前年比6.9%減とマイナス幅が拡大した。

「炭火焼肉酒家 牛角」は、2002年のB S E騒動時も積極的な出店により売上は減少しなかったが、2003年末のB S E騒動では翌年に大きな影響を被り、2004年こそ新規出店で補いプラスであったものの、2005年には初の前年割れとなり、2006年は店舗数も減少し、売上も大幅減となった。2007年は、減少幅が縮小する見込である。焼肉F Rトップの「安楽亭」は、2003年末のB S E騒動の影響に加え、ロードサイド店を中心に飲酒運転取り締まり強化の影響を受け大幅に売上を減少させている。「叙々苑」は、2006年に他のチェーンが売上を減少させる中、店舗数を増やして実績を維持し、2007年は売上を拡大する見込である。焼肉屋さかいは、「焼肉屋さかい」からより付加価値を高めた「炭火焼肉さかい」へのシフトを進め、食べ放題の導入などのテコ入れも図ったが、閉店が相次いだため売上も大幅減となった。物語コーポレーションは、「焼肉一番カルビ」、「焼肉一番かるび」、「焼肉キング」を展開し、多くのチェーンが売上を減少させたり横ばいに留まる中で、2006年は店舗数を増加させ売上を拡大した。2007年も増加の見込である。

< 調査対象 >

ファーストフード	ハンバーガー、チキン、ドーナツ、サンドイッチ、クレープ、アイスクリーム、ギョーザ、ラーメン、カレーショップ、ステーキ、立ち食いそば・うどん、クイックパスタ、回転ずし、たこ焼き・お好み焼き類、牛丼、天丼、海鮮丼、とんかつ・かつ丼、ビビンバ、定食チェーン
テイクアウト	テイクアウト弁当・惣菜、デリカショップ、おにぎり、テイクアウトずし、ベーカリーショップ、百貨店デリカ、百貨店スイーツ、CVSデリカ、量販店デリカ、ホテルデリカ、シュークリーム専門店
ホームデリバリー・ケータリング	宅配ピザ、宅配ずし、宅配中華料理、宅配弁当、宅配釜めし、FR宅配、病者・高齢者食宅配、仕出し弁当・ケータリング
料飲店	居酒屋・炉端焼、アップー居酒屋、アップーミドル居酒屋、やきとり専門店、ビアレストラン、地ビールレストラン、ディスコ・クラブ、カフェバー・ショットバー、スナック・クラブ・パブ
交通機関	駅構内飲食店、列車内食、機内食、有料道路SA・PA、客船食堂
レジャー施設	ゴルフ場、スキー場、健康ランド・スーパー銭湯、レジャーランド、野球場、映画館・シネコン、フードテーマパーク、ギャンブル場、カラオケボックス、複合カフェ
ファミリーレストラン	標準型FR、高価格型FR、低価格型FR、和風FR、イタリアFR、中華FR、焼肉FR、ステーキ・ハンバーグFR、シーフードFR、チャンポンFR、バイキングレストラン
喫茶	コーヒーショップ、低価格型コーヒーショップ、高価格型コーヒーショップ、喫茶店・コーヒー専門店、紅茶専門店、フルーツパーラー、多毛作型コーヒーショップ、ベーカリーカフェ、甘味処、ジューススタンド、インショップカフェ
西洋料理	フランス料理、イタリア料理、高級イタリア料理、パスタレストラン、アメリカ料理、カリフォルニア料理、ドイツ料理、スペイン料理、ステーキ・ハンバーグレストラン、シーフードレストラン、オムレツ・オムライスレストラン
日本料理	そば・うどん、そば居酒屋、すし、うなぎ、てんぷら、とんかつ、すき焼き・しゃぶしゃぶ、料亭・割烹、豆腐料理、低価格ふく料理、かに料理、ちゃんこ料理、もつ鍋、お好み焼き
東洋料理	焼肉料理、ジンギスカン料理、高級中華料理、一般中華料理、点心料理
エスニック料理	メキシコ料理、インド料理、東南アジア料理
給食	産業給食、学校給食、病院給食、福祉施設給食、老人福祉施設給食、学生食堂
宿泊宴会場	ホテル、(ビジネスホテル)、結婚式場・宴会場、旅館、民宿・ペンション

< 調査方法 >

弊社専門調査員による対象企業への直接面接取材を基本に、電話ヒアリング、公的データ・公表資料等文献調査により補完

< 調査期間 >

2007年7月～8月

以上

資料タイトル：「**外食産業マーケティング便覧 2007 総括編**」

体 裁：A4判 215頁

価 格：80,000円(税込み84,000円)

調査・編集：富士経済 東京マーケティング本部 第一事業部

TEL:03-3664-5831 (代) FAX:03-3661-9778

発 行 所：株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165 e-mail: info@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL:<http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>

URL:<https://www.fuji-keizai.co.jp/>